

# ハノイ漢喃研究院蔵『五倫叙』をめぐって

佐藤トウイウエン

On the *Ngũ luân tự* in the collection of the Institute  
of Hán-Nôm Studies in Hanoi

SATO Thuy Uyen

*Ngũ luân tự* (Discourse on the Five Relations) was written by the Vietnamese Confucian scholar Nguyễn Tông Quai in *chữ nôm*, the “double seven-six-eight” form, consisting of two seven-syllable lines followed by a six-syllable line and an eight-syllable line. The contents of this text concern encouraging the perfection of the five basic human relations, and were intended to serve as “family precepts” on morality and ethics for Nguyễn Tông Quai’s descendants. There is virtually no previous scholarly research on Nguyễn Tông Quai’s *Ngũ luân tự*. Since it can be regarded as a compendium of the Vietnamese ideal of the five relations — particularly those between ruler and subject, father and son, and elder and younger brother—*Ngũ luân tự* will be examined in this paper from a bibliographic perspective, which focuses on these relations while attempting to elucidate the unique aspects of the Vietnamese conception of them.

キーワード：五倫叙 (Ngũ luân tự)、阮宗奎 (Nguyễn Tông Quai)、倫理道德教育 (giáo dục luân lý đạo đức)

## はじめに

「五倫」<sup>1)</sup>は儒教における「君臣」、「父子」、「兄弟」、「夫婦」、「朋友」についての五つの理念であり、人倫の基本的な概念とされる。「五倫」は『孟子』の「教以人倫、父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信」(『孟子』滕文公上)に始まり、『中庸』、『白鹿洞書院揭示』などの文献にも出てくる。ベトナムの「五倫」に関する文献は、管見によれば、現在、ハノイ漢喃研究院に『五倫叙』、『五倫記』、『五倫詩歌』の漢字・字喃文献として計3点が所蔵されている。そのうち、『五倫詩歌』は編纂年代、作者が不明であるが、『五倫叙』、『五倫記』はいずれも作者名が明記されている。『五倫叙』の編纂年代は『五倫記』より古く、作者の進士阮宗奎は『五倫記』の作者裴秀嶺よりも有名である。いずれも内容としては、「五倫」を全うすることを勧めるものであるが、三つの文献についての先行研究はほとんど見当たらない。『五倫叙』についていえば、これは阮宗奎が子孫に「倫理道德」を教育する「家訓」、「家範」としての役割を果たしたものである。ここには、ベトナムの五倫、とりわけ「君臣」、「父子」、「兄弟」の理念がまとめられていると考えられるため、本稿では「君臣」、「父子」、「兄弟」を中心に『五倫叙』を文献学的に考察しつつ、ベトナム人の「君臣」、「父子」、「兄弟」についての理念の特色を明らかにしたい。

### 1 ベトナムにおける『五倫』の流布状況

『五倫叙』を考察する前に、まず、ベトナムにおける『五倫』の流布状況を整理してみたい。現在、ハノイ漢喃研究院には漢字・字喃で書かれた三つの『五倫』関係文献が所蔵されている。

#### ① 『五倫叙』(AB.128)

『五倫叙』は阮宗奎によって「双七六八体」<sup>2)</sup>の字喃で著された。『五倫叙』の編纂年代は明記されていないが、本書の冒頭には「御天縣福溪社進士兩奉北使阮宗奎撰」と記されている。一

1) 『尚書』皋陶謨には「五典」とあり「曰天叙有典勅我五典五惇哉」という。一方、朱熹の『白鹿洞書院揭示』には「五教」と記され、「父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信。……右五教之目。堯舜使契爲司徒。敬敷五教。即此是他」という(大阪大学図書館所蔵『白鹿洞書院揭示』第4葉表裏を参照)。

2) 「六八体」および「双七六八体」とは、ベトナム語独自の短詩形慣用表現である。五言・七言という中国の詩歌形式にもとづき、押韻・平仄などの規則をふまえ、2行以上の6音、8音を交替させるのが「六八体」、4行以上の7音、7音、6音、8音を交替させるのが「双七六八体」の詩歌形式である。この二つの詩歌形式は、漢詩、中国の文献、儒教經典を翻訳・解説した作品や、ベトナムの歌謡、民謡など民間文学の作品にしばしば使用された。

方、阮宗奎の経歴を見ると、彼は2回（景興2年辛酉年（1741）<sup>3)</sup>、景興9年戊辰年（1748）、北京に使節として派遣された<sup>4)</sup> ようである。彼の没年を見ると、本書は1748年以降、1767年以前に刊行されたものと推測される。合計19葉<sup>5)</sup>の字喃刊本で、高さ31センチ、幅21センチである。本稿では本書の「五倫」を考察する（後述）。

## ② 『五倫記』（AC. 38）

『五倫記』は明命11年（1830）、裴秀嶺（ブイ・トゥ・リン、Bùi Tú Lĩnh）によって著された12葉<sup>6)</sup>の「双七六八体」の字喃の刊本である。高さ25センチ、幅15センチ。その構成は「五倫記序」から始まり、「五倫曲」、「續着五倫記」と続く。「五倫記序」、「續着五倫記」は漢文で、「五倫曲」は「双七六八体」の字喃で書かれている。内容は『五倫叙』と同様に、「五倫」を全うするように子孫に勧めたものである。

## ③ 『五倫詩歌』（AB. 538）

『五倫詩歌』の作者、編纂年代は不明である。全8葉<sup>7)</sup>の漢字・字喃の写本で、高さ27センチ、幅15センチ。内容としては序から始まり、漢文で書かれた「君臣第壹」、「父子第貳」、「夫婦第参」、「兄弟第四」、「朋友第五」の5首の「七言絶句」である。各首の「七言絶句」ののち、字喃による「双七六八体」で書かれた5首の詩がある。本書も「五倫」について説明するものである。

これら三者のうち、本稿では中興黎朝の高官阮宗奎の著作である①『五倫叙』を取り上げて考察したい。

3) 阮宗奎が、北京に使節として派遣された一回目の年については、阮宗奎の経歴に関する資料のうち、Đỗ Đức Hiều 他、*Từ điển văn học bộ mới*『文学字典』新版（Thế Giới 出版社、2004年、1194頁）のみは1742年であったとある。

4) Trần Văn Giáp, *Tìm hiểu kho sách Hán Nôm tập 2*『漢字・字喃の書庫の考察』第二冊（Khoa học Xã hội 出版社、1990年）100頁。

5) 『ベトナム漢喃遺産一書目提要』には38頁とある。Viện Nghiên cứu Hán Nôm và Học viện Việt Nam - Đông Bắc Cổ Pháp, *Di sản Hán Nôm Việt Nam - thư mục đề yếu tập 2*『ベトナム漢喃遺産一書目提要』第2冊（Khoa học Xã hội 出版社、1993年）406頁を参照。

6) 『ベトナム漢喃遺産一書目提要』には24頁とある。注5前掲、*Di sản Hán Nôm Việt Nam - thư mục đề yếu tập 2*『ベトナム漢喃遺産一書目提要』第2冊、406頁を参照。

7) 『ベトナム漢喃遺産一書目提要』には16頁とある。注5前掲、*Di sản Hán Nôm Việt Nam - thư mục đề yếu tập 2*『ベトナム漢喃遺産一書目提要』第2冊、406頁を参照。

## 2 『五倫叙』と阮宗奎

### (1) 阮宗奎の経歴

阮宗奎の経歴について書かれた史料は、筆者の調査によれば、『雨中隨筆』、『使華叢詠』、『詠史詩卷』、『皇越詩選』、『*Di sản Hán Nôm Việt Nam – thư mục đề yếu tập* 2<sup>8)</sup> (『ベトナム漢喃遺産—書目提要』第2冊)、*Thư mục Hán Nôm-mục lục tác giả*<sup>9)</sup> (『漢喃書目—作者目録』)、*Lược truyện các tác gia Việt Nam*<sup>10)</sup> (『ベトナム作者たちの略伝』)、*Tên tự tên hiệu các tác gia Hán Nôm Việt Nam*<sup>11)</sup> (『ベトナム漢喃の作者の字、号』)、*Từ điển văn học bộ mới*<sup>12)</sup> (『文学字典』新版)、*Tìm hiểu kho sách Hán Nôm tập* 2<sup>13)</sup> (『漢字・字喃の書庫の考察』第二冊)の計10点がある。このうち『雨中隨筆』、『使華叢詠』、『詠史詩卷』、『皇越詩選』のみが漢文で書かれ、他の6点は国語字(現代ベトナム語正書法)の文献である。

ここでは漢文の文献である『雨中隨筆』、『使華叢詠』、『詠史詩卷』、『皇越詩選』の関連記述のみを引用したい。

まず『雨中隨筆』の記述によると、

永佑、景興之間、前輩名公始多留意詩律、而阮公宗奎翹然爲一時領袖。其次阮公輝鑿、又其次胡公士棟相繼而起、皆能各自名家<sup>14)</sup>。

とある。

そして、「使華叢詠詩序」に記されている胡士棟の序には、

- 
- 8) 注5前掲、『*Di sản Hán Nôm Việt Nam – thư mục đề yếu tập* 2』(ベトナム漢喃遺産—書目提要)(Khoa học Xã hội 出版社、1993年)第2冊、406頁を参照。
- 9) Ban Hán Nôm thư viện khoa học xã hội、『*Thư mục Hán Nôm-mục lục tác giả*』(漢喃書目—作者目録)(Ủy ban khoa học xã hội Việt Nam 出版、1977年)、253~254頁。
- 10) Trần Văn Giáp、『*Lược truyện các tác gia Việt Nam*』(ベトナム作者たちの略伝)(Văn học 出版社、2000年)294頁。
- 11) Trịnh Khắc Mạnh、『*Tên tự tên hiệu các tác gia Hán Nôm Việt Nam*』(ベトナム漢喃の作者の字、号)(Khoa học xã hội 出版社、2002年)419~420頁。
- 12) Đỗ Đức Hiểu 他、『*Từ điển văn học bộ mới*』(文学字典)新版(Thế Giới 出版社、2004年)1194~1195頁。
- 13) 注4前掲、Trần Văn Giáp、『*Tìm hiểu kho sách Hán Nôm tập* 2』(漢字・字喃の書庫の考察)第二冊、98~100頁。
- 14) 范廷琥『雨中隨筆』(NLVNPF-0300・R.1609、ベトナム国家図書館の電子文)、1906年、第36葉裏~第37葉表。

阮舒軒公北使詩、國人傳誦久矣。……余因憶遊京辰、先生角巾私第、每以不能及門爲恨。……夫先生由辛丑會元庭甲兩奉北使、仕至戸部左侍郎、秉道疾邪、雖讐人中傷身退而名益至晚輩咸尊仰之、其所以顯名於辰傳於後者、豈直區區文字而已耶<sup>15)</sup>。

とある。

続いて、「使華叢詠前集序」に記されている中国の張漢昭の序には、

葵亥夏過友人高子蘊山齊中得晤安南使君阮子舒軒、峩冠博帶儒雅風流、聆其言論不煩譯語也、接其手裁藹然可觀也、及命其所學、諸子百家靡所不貫、始知爲讀書嗜古之士、尤長於詩學、其聲韻格律、悉學唐人、使君公務之暇、吟哦不句日間得詩近若干首<sup>16)</sup>。

とある。

次に、『詠史詩卷』には「裴氏家藏、一名四虎安南四大才、阮宗奎、阮伯璘、阮卓倫、吳俊徹」<sup>17)</sup>とある。

さらに、『皇越詩選』には「阮宗奎〔號舒軒、御天福溪人、裕宗保泰二年會元正進士、兩奉使、累官戸部左侍郎、被譴貶侍講〕」<sup>18)</sup>とある。

これに国語字の資料6点の記述をあわせて阮宗奎の経歴を整理すれば、以下のとおりである。阮宗奎(グエン・トン・グアイ、Nguyễn Tông Quai<sup>19)</sup>)は、舒軒(Thư Hiên)と号す。太平府

15) ハノイ・漢喃研究院蔵『使華叢詠』(A1552)、第1葉～第2葉表。中国復旦大学、越南漢喃研究院合編『越南漢文燕行文献集成』第2冊、(復旦大学編出版社、2010年、133～135頁)所載影印本による。

16) ハノイ・漢喃研究院蔵『使華叢詠』(A1552)、第2葉表裏。注15前掲、(『越南漢文燕行文献集成』第2冊、135～136頁)所載影印本による。

17) ハノイ・漢喃研究院蔵『詠史詩卷』(写本、67葉)を参照。

18) 裴揮璧『皇越詩選』(R.969・NLVNPF-0086-04、ベトナム国家図書館の電子文)、1825年、卷之五第19葉裏。〔 〕の内、双行注である。

19) 彼の名前については *Di sản Hán Nôm Việt Nam – thư mục đề yếu tập 2* (『ベトナム漢喃遺産—書目提要』第2冊)、*Thư mục Hán Nôm-mục lục tác giả* (『漢喃書目—作者目録』)の国語字の文献にはグエン・トン・クエ、Nguyễn Tông Khuêと記されている。しかし、Trần Văn Giáp、*Tìm hiểu kho sách Hán Nôm tập 2*『漢字・字喃の書庫の考察』第二冊(Khoa học Xã hội 出版社、1990年、100頁)および Chu Xuân Giao、*Trở lại để tiếp tục khẳng định cách đọc Nguyễn Tông Quai* 阮宗奎 cho danh xưng tác giả Sử Hoa tùng vịnh『使華叢詠』の作者の名称に対する Nguyễn Tông Quai 阮宗奎という読み方の再確定について』『漢喃雑誌』第1号(110)(Viện nghiên cứu Hán Nôm、2012年、54～78頁)によれば、「グエン・トン・クエ、Nguyễn Tông Khuê」と記されているのは間違いであり、グエン・トン・グアイ、Nguyễn Tông Quaiは正しい氏名であるとある。

(phù Thái Bình) 御天梟 (huyện Ngự Thiên) 福溪社 (xã Phúc Khê) の人で、正和14年 (1693) に生まれた。彼は探花武晟の塾に入門したのち、国子監の監生となった。彼は勤勉で文才があることで有名であり、阮伯璘、阮卓倫、呉俊徹とともに「長安四虎」、「安南四大才」と呼ばれた。保泰2年 (1721) 進士<sup>20)</sup>となる。景興2年辛酉年 (1741) 9月28日、彼は副使として中国に初めて派遣された。景興9年戊辰年 (1748)、再び中国に正使として派遣される。のち戸部左侍郎、京北承政使、宣光督同という高官を歴任した。そして、「午亭侯」という爵号を授かった。しかし、彼は正義感が強かったために同僚から疎まれ、翰林院侍講に降格されたという。

解職されたのち、彼は村で塾を開いて漢字、漢文を教育する先生になった。彼の門人には黎貴惇 (レイ・クイ・ドン、Lê Quý Đôn)、段阮俶 (ドアン・グエン・トウク、Đoàn Nguyễn Thục) などの多くの有名な儒者、高官がいる。景興28年丁亥年 (1767) 3月4日、74歳で没した。

彼は『五倫叙』、『使程新傳』、『使華叢詠』といった作品を著した。このほか、『詠史詩卷』、『史文摘錦』、『華程偶筆録』、『壬戌課使程詩集』などには詩文も収められている。

このように、阮宗奎は中興黎朝 (1532-1789) の高官であり、政治・外交面で活躍した有能な忠臣であり、詩人や教育者でもあった。また、典型的な儒者として中興黎朝の燕行使節の紀行文、字喃文学の発展にも大きく貢献した人物といえよう。

## (2) 『五倫叙』誕生の背景および創作の動機

この作品の誕生の背景および創作の動機は本文に明記されている。

『五倫叙』の本文には、

……孳良能埃埃固奇、課孩穉羸匱別哈、嫌爲人欲俸醜、坤垠性諾易虧理歪。……乙如聖化牢穢、……法吠排舛等人倫。……擬命才凶學農、詞章兜噉嗜共索遠、……時請台清閒無事、卷古書栖拱咨咨、疎粘且目人倫、劄排孝子忠臣几初、悉醜酬囓數卞汝、蟄正ハ國語没篇、孳初吏演義顛、……嚙兒孫輾割吟哦、油哈袒蒂推罌、忠孝没茄福德齏齏<sup>21)</sup>。

(日本語訳：……「良能」については誰でも幼い頃から知っている。しかし、人は自らの貪欲のせいで、その天性がぼやけてしまう。……聖賢の教えに従うとそんな我々でも良人に

20) Dương Quảng Hàm, *Việt Nam văn học sử yếu* 『ベトナム文学史要』(Bộ giáo dục Trung tâm học liệu 出版、1968年、83頁)によると、1448年、黎朝の仁宗帝は会試に合格した進士を及第、正榜、附榜という三甲に分けた。1484年、聖宗帝は狀元、榜眼、探花を進士及第に、正榜を進士出身に、附榜を同進士出身に改変させた。

21) ハノイ漢喃研究院蔵『五倫叙』(AB128)、第1葉表、第18葉裏～第19葉表。

なれるのだ。……人倫には「五倫」という教えがある。……自分は才能が恵まれず学問が浅薄であるため、詞章については先輩と比べものにならない。……私は暇な時間を見つけ、その教えが書かれた書籍を読んでみることにした。孝子、忠臣の模範が記されている「人倫」という課目に至った時、私はこれらに陶醉したが、国語<sup>22)</sup>の一篇の詩を著して聖賢の教えの意味を解釈することにした。……子孫たちが「五倫」を学習して倫理道徳が理解し、忠孝の一家となることは千年の福德であろう。)

とある。

創作の動機はここに明らかにされたとおりである。すなわち、阮宗奎は、子孫たちに「人倫」、「忠孝」などの倫理道徳を「家範」、「家訓」として読み継がせるため、凡才で下手ではあるが、『五倫叙』を著すことにしたという。

### (3) 『五倫叙』の構成

すでに述べたとおり、『五倫叙』の編纂年代は明記されていないが、本書は1748年以降から1767年以前に刊行されたものと推測される。全19葉で、高さ31センチ、幅21センチ。本書には扉がなく、第一葉の右側に「御天縣福溪社進士兩奉北使阮宗奎撰」とあり、続いて『五倫叙』の本文が始まる。

本文は全646句の「双七六八体」から成り、二部に分けられる。第一部には455句があり、中国の皇帝、聖賢などの話を引用しつつ「君臣」、「父子」、「兄弟」、「夫婦」、「朋友」という「五倫」の理念が説明されている。まず第一部には、最初の14句が本書の導入部があり、次の15句から455句まで「五倫」についての内容が記されている。次に第二部には、456句から626句まで再び「五倫」の理念がまとめられ、「君臣」、「父子」、「兄弟」、「夫婦」、「朋友」それぞれの役割、責任についての詳細な解釈が示され、次の627句から646句までが結論部となる。

---

22) ここでの国語は字喃という意味である。

### 3 『五倫叙』に記された「君臣」、「父子」、「兄弟」について

紙幅に限りがあるため、本節では「君臣」、「父子」、「兄弟」の理念に焦点を当てて考察してみたい。

#### (1) 君臣

##### (ア) 第一に順序づけられる「君臣」関係

阮宗奎によれば、「五倫」とは人道、天地の道理である。孟子の場合、「父子」が第一、「君臣」が第二の順序に位置づけられるが、彼はそれと異なり、「五倫」の順序として、「君臣」関係を第一に置いている。

#### 【原文】

韓時道奇君臣、恩溥父子義斯弟兄、裋衿情處黽夫婦、課交遊朋友裋信、意羅人道當然、理常



忝坦唯傳初昴。……肴碎羅鞞毘絳、蠅遽會奇焰香緣冷<sup>23)</sup>。

### 【日本語訳】

「君臣」の道は「五倫」の中でもっとも偉大な理念である。たしかに「父子」の恩、「兄弟」の義、「夫婦」の情、「朋友」の信は人道として当然守るべきであり、現在に至るまで伝えられてきた天地の道理である。……しかし、「君臣」は「三綱」で第一に位置づけられるように、龍と雲の関係のように、とりわけ良好な関係を結ぶべきものである。

ここで注意したいのは、『五倫叙』に記されている「五倫」の順序である。『孟子』によれば、「父子」は第一、「君臣」は第二であり、『中庸』第二十章は「天下之達道五、所以行之者三、曰、君臣也、父子也、夫婦也、昆弟也、朋友之交也、五者天下之達道也」とあり、「君臣」を第一とする。しかし、阮宗奎の『五倫叙』に記された「五倫」の順序は、「君臣」、「父子」、「兄弟」、「夫婦」、「朋友」であり、「君臣」が先頭で「兄弟」が「夫婦」よりも先に位置づく。このように、『五倫叙』に記されている「五倫」の順序は『孟子』『中庸』ともに一致していない。

チャン・バン・ザウ (Trần Văn Giàu) 氏はベトナムの儒教について「儒教の道德のうち、五倫は最も重要なものである。忠孝は五倫のうち、最も重要なものである。「忠」は「孝」より上位であるが、「孝」を「忠」より上位に置く場合もあり、「孝」の道は「忠」の基層である<sup>24)</sup>と述べている。筆者の考察によれば、ベトナムは歴史的に戦争、戦乱が多かったために、ベトナム人は祖国、民族の問題、すなわち「忠」の問題を父母や家庭、すなわち「孝」の問題よりも上位に置かなければならない場面も多くあった。たとえば、陳朝の王族・武将である陳興道、後黎朝の開国の高官の一人である阮鷹の事例である。彼らの主張は国を失うならば同時に家も失うというものであった<sup>25)</sup>。

阮宗奎が生きた時代は中興黎朝の時代であるが、当時、黎朝の皇帝は政治の実権を握っておらず、すべての権力は鄭主 (Chúa Trịnh) (1545-1787) の手中にあった。また、「鄭阮紛争」と呼ばれた鄭氏と阮氏が相争う分裂時代もあった。このような混乱の時代に生きていたこと、さらに、「国家」を「家族」より上位に置いた先人の模範があったこと、そうした理由により、阮宗奎は「君臣」を「父子」の上位に置いたのであろう。「家族」より「国家」を重視したことは

23) 注21前掲、『五倫叙』(AB128)、第1葉裏。

24) Trần Văn Giàu, *Sự phát triển của tư tưởng ở Việt Nam từ thế kỷ XIX đến Cách mạng Tháng Tám* tập 1 『19世紀から8月革命に至るベトナムの思想の発展』第1冊 (Chính trị quốc gia 出版社、1996年)、220頁、241頁。

25) 佐藤トウイウエン「『西南紅進歌』から見たベトナム人の「孝」思想」、『東アジア文化交渉研究』第6号、関西大学大学院東アジア文化研究科、2013年3月、307～326頁。

自然の流れであった。

(イ) 「君明臣正」による国家の隆盛

阮宗奎は中国の代表的な皇帝（堯帝、舜帝、禹帝、商朝の太茂帝、周文王、唐玄宗帝など）、賢臣（契、后夔、皋陶、巫咸、宗璟、姚崇など）の模範、さらに皇帝が悪臣を見誤って登用したために国が混乱したという話（宋眞宗帝と王欽若、宋神宗帝と王安石）を引用しつつ、「君明臣正」という理想の「君臣」の関係について強調している。

【原文】

聖初堯舜垂衣、才固契夔謨固禹臯、……執鍼治浩翳民、隣丹靈瑞臺春盪和。……碎巫咸所看太茂、□□<sup>26)</sup>賢忝厚茹商、……周文初悉哈宅俊、罌等碎執運黜名、兪馱執武才冷、核車糶陣鎬京礎壘、……玄初箕耨悉求治、璟買崇拱計名臣、璟<sup>28)</sup>符正守文、崇賢之吏匹咨獻<sup>29)</sup>、……祥符用才執浩、達弘王崑轅寡官、……熙寧拉撰馱賢相、躄淋用仍党青苗、……之朋看翹碎<sup>27)</sup>後、悉共享祿<sup>27)</sup>崑臯<sup>27)</sup>。

【日本語訳】

かつての聖賢堯舜は衣裳を垂れて天下を治めた。才ある人といえば、契<sup>28)</sup>、夔<sup>29)</sup> がいて、謀の人といえば、禹帝には皋<sup>30)</sup> がいた。そのため、天下が安定し、民衆の生活も豊かであった。……太茂帝の時代には、巫咸という臣下がいて、天は商朝を大いに繁栄させた。……かつて周の文王は英俊を傍に置きたいと考え、道徳、文武、才知が優れた人を徴用して周王朝を開き、鎬京で城を建設した。……玄宗帝は国を治める熱意があった。璟も崇<sup>31)</sup> も名臣であるといえる。璟は「正」、「文」を守り、崇は二度三度と善導を上奏した。……祥符<sup>32)</sup> 年には才能ある人を用い、国を治めたが、王<sup>33)</sup> という人を百官の上位に置いていた。……熙寧年には賢人を選抜したが、「青苗法」を見誤って信用してしまった。……「君明臣正」ほどよいものはない。「君明臣正」であれば、国が盛んになり、祿を多く享受できるのである。

26) □は欠字（1字分）で示す。

27) 注21前掲、『五倫叙』（AB128）、第1葉裏。

28) 契は舜の臣の名前である。

29) 夔、すなわち后夔、舜の臣の名前であり、楽官になった。

30) 皋、すなわち皋陶、堯、舜、禹帝の三代に仕え、法官になった。

31) 璟、崇すなわち宗璟、姚崇、唐朝の宰相である。

32) 祥符は宋眞宗時代の3番目の年号（1008年-1016年）である。

33) 王という人、すなわち、王欽若である。

## (ウ) 君主の臣下に対する役割、職責について

阮宗奎は君主の役割、職責について言及しており、君主は「明君」であり、奸臣、忠臣をきちんと区別し、人の能力に従い徴用すべきという。

## ① 君主は善悪を区別し、人の品行を正しく認識すべきである。

## 【原文】

叙五倫包排大畧、噉添啞盤泊敬勸、希碎會合羅縁、共悉共飭呵輒嫌疑、遠愈檐爛如燭智、泔濁清罵底混淆、麴燻人品<sup>塔</sup>高、類芾松柏類芾藤籬<sup>34)</sup>。

## 【日本語訳】

「五倫」の大略は既述したが、さらに幾つかの言葉を加えて説明したい。君臣が協力するには良縁が必要である。そのため、お互いの意見を一致させて疑心暗鬼してはならない。また、上に立つ者は燃える松明のように身を正す必要があり、「清」、「汚」を混合してはいけない。鏡とは、どれが松柏であり藤のようなつる草であるのかなど、人品の高低を照らすものとなる。

## ② 君主は人の能力に応じて用い、賢臣を信じなくてはならない。

## 【原文】

馭正邪斥平弋達。法官人沛蜜曾厘。衆賢特於百司、……核缶甞罵兮腴利、篤沒悉信忌渚仁、啞讒閣底外聰、芾埃繞錦芾埃涅鑽、德清光燭燭焔焔、士盃用盃翹大猷、執軻享治唐虞。

## 【日本語訳】

君主は人の「正」、「邪」を見分けて登用するが、そのために官人の法則を細かく厳密にする必要がある。それは才徳ある人を百司に任務させるためである。……直木には曲がった影がないように、君主は信頼されるよう努め、二心を持ってはいけない。悪口、中傷も耳に入れてはならない。錦、黄金のような徳はきらきらと輝き、心地よく土を使い、大道を開くことができ、唐虞時代のように国を治めることが可能となる。

## (エ) 臣下の君主に対する役割、職責について

阮宗奎は臣下の役割、職責についても言及しているが、「忠」の理念については民族、国家のため、さらに自らの「徳」のためであるという。阮宗奎は「忠」の理念を国家という大きい範疇へと転換させ、さらに「修身」の意を込めたのであろうか。この点については「忠君」に傾

34) 注21前掲、『五倫叙』(AB128)、第13葉裏。

く儒教本来の思想体系と異なる点といえよう。

① 臣下は君主の恩を忘れず、自らの徳のためにも国に奉じるべきである。

【原文】

隊恩遠波洎至雲、悞塘報補裊之、盡忠守意沛窺工悉。……悉占執浩悞茹、……轆羅爲徳輶羅爲民。

【日本語訳】

天、海のように自分を擁護してくださる君主のご恩にお返しすることを忘れず、「忠」という理念を心に刻まなければならない。臣下というものは家を忘れたとしても、国に奉じる心はいつまでも変えてはならない。……それは、まず自らの徳のためであり、次に民のためでもあるのである。

② 臣下は「清」、「慎」、「勤」および「六計」を厳守して奉仕すべきである。

阮宗奎は、臣下は協力性を持ち、法と礼を実施し、「鞠躬盡瘁」の官吏ではなくてはいけないという。これらの法と礼の中身について見てみよう。

【原文】

几良臣哈塘表率、……當官謹念康康、清勤匹苻簾能~~秋~~條、恰工朝分司各職、共曩~~夏~~飭奉公、……渚算僥倖~~渚~~貪求、……意碎~~時~~買等証冷、……鑿鐘~~窺~~竹燭名閑菴。

【日本語訳】

良臣は手本とならなければならない。……そのためには官吏の法として「清、慎、勤」の三字<sup>35)</sup> および「簾、能」についての六項<sup>36)</sup> を遵守しなければならない。……朝廷における各部の官吏と協力して、日夜、公務に奉じることに尽力しなければならない。……傲慢になって、威張り貪欲になってはならない。……このように、礼儀正しい良臣であるべきだ。……芳名は鐘、竹に刻まれ、万代に伝えられるのである。

35) 本書は「双七六八体」の詩の文献であり、韻、字数の制限があるため、「清」、「勤」の二字のみが記され、「慎」の文字を省略する。「清」、「慎」、「勤」は官吏の守るべき清廉、謹慎、勤勉の三つの道である。『呂本中、官箴』に「當官之法、惟有三事、曰清、曰慎、曰勤」とある。

36) ここでの六項は「六計」である。すなわち、「廉善」、「廉能」、「廉敬」、「廉正」、「廉濃」、「廉辨」という官吏の功過を計るための六つの基準である。『周禮』天官、小宰に「以聽官府之六計、弊羣吏之治、一曰廉善、二曰廉能、三曰廉敬、四曰廉正、五曰廉濃、六曰廉辨」とある。

### まとめ

このように、阮宗奎によれば、君主は明君として人の品行を正しく認識し、人の能力に応じて人を用いるべきであるという。これは阮宗奎が『尚書』皋陶謨篇の「皋陶曰、都在知人在安民、……知人則哲、能官人」に従った結果であろう。さらに、君主は人の正邪区別しつつ徴用し、賢臣を信じなければならないともいう。これは「用人不疑、疑人不用」（『旧唐書』陸贄伝）の方針に従いつつ、「賢人である臣下を徴用し、信頼すること」を詳細に主張したものといえよう。一方、阮宗奎は臣下の場合、君の恩を忘れず、国を家の上位に置き、自らの徳および民、国のため「忠」の理念を心に刻むべきだという。さらに、臣下は「清」、「慎」、「勤」および「六計」を厳守し、他の官吏と協力し、朝廷の公務に奉じること尽力しなければならないともいう。つまり、彼にとって臣下は官吏の道としての法則や「礼」を守り、朝廷のため個人の自我を忘れ、協力性を持ち、他の官吏と協力しなければならない立場にある。

## (2) 父子

『五倫叙』では「父子」の順序は第二に置かれ、『孟子』と異なっている。内容としては舜、周文王、周武王などの皇帝、周公、張仲など賢人の孝行の模範、閔損、王祥、老萊子、朱寿昌、黄香、丁蘭、徐積などの「二十四孝」説話の孝子の話が見られる。そこでは、父は子に対して「慈」の心を持つだけでは不十分であり、道徳、職業を教育しなければならないという。また、財産を分配する際、子に対して皆平等に扱うべきであるともいう。

### (ア) 子の父に対する役割について

子が父にしなければならない役割にただ一つである。それは「二十四孝」説話の孝子の模範に従って「孝」の思想を実施することである。

① 子は親の「劬勞」の恩を忘れず、親孝行しなければならない。

#### 【原文】

蓼莪兪舜切牢、恩情坤把劬勞坤填、代初啗混昫討孝、處准坤裋舜へ欣、……業茄周綏台王李、混羅文聖瑞夔醜、康康念討庄虧、禮常視膳没咄呷番、法底傳朱混爛綏、徳武芾虎見肴文、……混周公可彥見英、丕共達孝妥名、舜初經傳竹竹群羶<sup>37)</sup>。……混稟生~~知~~恩~~推~~敬、功擯招丕審嶽

37) 注21前掲、『五倫叙』第4葉表裏。

高、箒皮填把兼包、爰恩恣意擲帶噉涓<sup>38)</sup>。

【日本語訳】

「蓼莪」に記された劬勞の九文字<sup>39)</sup>の恩とは、返すことが困難なものである。……かつて親孝行の実践者として舜が模範にされていた。また、王季は周朝を継続した者であり、文王はその王季の子であるが、文王はその孝の理念を心に留めていた。つまり、文王は毎日三食ごとに父を訪ねたのである。文王はこのことを子の武王にも伝えた。武王の孝心は父の文王に負けなかった。……周公は兄と肩を並べるほどの「親孝行」の実践者として有名であった。その当時の話が記されている。……子は親の山のように高い恩に感謝する気持ちを持ち続け、その恩を返すことを決して忘れてはなりません。

② 子は「晨昏定省」の心を持って、親に尽くすべきである。

【原文】

事偏私子騫啗、嚴堂哈讎責韃茄、沒啞死順疎戈、移恨輒和轉咭輒腰。……孝蝓張仲埃齊、經詩割底名盼豸秋。……固馱子職庄虧、挹期詔冷擻期襠農、……涇庄容弘王添淩、歇道蝓庄磊絲毫、恥悉孝感覽躄、諾哈抚釘歪蒂惜鴿、箕埃嫌塘除隔阻、特父書明撰帶巾、怒埃豸豸思親、……拊丁爲慈親想樣、鑿梏蝓堆像雙雙、徐爲親諱動悉、種砵庄用塘砵庄埒、……意几輻涇名蒼嚙、萬劫群皸皸味香、吒賢罷討事常、意茄固福翹塘夥奴<sup>40)</sup>。……禮常定省颯颯、詔冬包挹擻夏吏偵、期於楨庄涓孝養、罵酖腰輒承歡、隊番侯下晦啖、糝豸子路襖愛老菜、椿劍鮮或爲霜沐、飭攤招襪糊纒湯、……念事親始終沒墨、意罷賢莠嚙啗<sup>41)</sup>。

【日本語訳】

子騫の父は後妻を責めたが、子騫の一言で「恨」、「嫌」を「和」、「好」に変えた。……父母に仕えた者として張仲ほどの人物はいなかった<sup>42)</sup>。その名は『詩経』に記され、後世に伝えられている。……子の道を少しも怠らなかった人がいた。寒い日には親のために冷えた筵を暖かくし、蒸し暑い日には枕を扇いだ。……王<sup>43)</sup>が親を奉じた際、少しも過ちも犯さなかった。彼の孝心は天を感動させた。そのため、川はいつも魚を、天は鳥を差し出した。父の手紙を受けと

38) 注21前掲、『五倫叙』第15葉表裏。

39) ここでの劬勞の九文字は「生」、「鞠」、「拊」、「畜」、「長」、「育」、「顧」、「復」、「腹」である。これは『詩経』小雅、蓼莪篇「父兮生我、母兮鞠我、拊我畜我、長我育我、顧我復我、出入腹我」による。

40) 注21前掲、『五倫叙』第5葉表裏、第6葉表裏。

41) 注21前掲、『五倫叙』第15葉裏。

42) 『詩経』小雅に「侯誰在矣、張仲孝友」とある。

43) ここでの王は王祥であり、「二十四孝」の一人の孝子である。

ったのち官職を棄てた人がいた。千里もの遠い土地から親を追慕した人もいた。……丁<sup>44)</sup>は慈しむ親の姿を思い浮かべながら、二つの木像を彫った。徐<sup>45)</sup>は親の諱のため、石の類いを使用せず、石の道を歩かなかった。……これらは有名な先人の事績であり、後世に名を伝えている。「父慈子孝」の条理を実践すれば、福德の多い家となるであろう。……子は朝夜、親を訪ね、一生懸命冬の筵を暖かくすること、夏の枕を扇ぐことも怠ってはならない。親と同居しなくても親を孝養することを忘れてはいけぬ。夫婦の愛情に夢中になり、「承歡」を怠ってもいけない。米を差し上げる子路は、斑衣を着た老萊子のように一日に何回も親を訪ね、喜ばせた。父が元気でない時あるいは病気になった時でも、看病に尽力したのである。……親に仕える心は一貫して変えてはならない。そうすると、賢い子であると人々に褒められるのである。

③ 子は親を恨んでではなく、親の教訓に従わなければならない。

【原文】

吒沔油褊念慈爰、孝極虧買沛涖賢<sup>46)</sup>。……課少年啣喙教訓、歲典坤承順渚虧<sup>47)</sup>。

【日本語訳】

父からの慈愛の心が不十分だったとしても親孝行に怠らないのは間違いなく賢い子である。……少年の時、親の教訓を聞くのは勿論だが、成人になっても親に従うことを忘れてはならない。

(イ) 父の子に対する役割について

阮宗奎は子育てに対する父の役割について言及している。阮宗奎によれば、中国の「父慈子孝」の「父慈」の観念では不十分であり、父は「慈」の心を持つとともに、子の進路、とりわけ「実業」、「実学」を養育することを重視しなければならないという。

① 父は子に対して「礼」、「仁」、「忠」、「孝」を教育しなければならない。

【原文】

吒冷沛沛冷空、腰昆哈吡買蒙鞞馱、勸妄迨歲群渚參、梗~~勢~~鞞駭~~鞞~~寅、押匳軋禮塘仁、吡蹀

44) ここでの丁は丁蘭であり、「二十四孝」の一人の孝子である。

45) ここでの徐は徐積であり、『百孝図』に記されている一人の孝子である。彼の父の諱は石である。関西大学総合図書館蔵『百孝図説』巻二亭冊 (LM2\*ほ\*23\*18-1)、第二十六葉表を参照。

46) 注21前掲、『五倫叙』第7表。

47) 注21前掲、『五倫叙』第15表裏。

理正禁垠悉邪、晡寅夜引塘忠孝、玉箕湏磨<sup>48)</sup>。買<sup>49)</sup>。

【日本語訳】

父は子に対して「慈」の心を持つだけでは不十分であり、子が立派な人になるための教育をしなければならない。十歳以下の子の場合、弱い枝のようにゆっくりと正し、子に「礼」、「仁」、「正道」を訓育し、邪心を禁止しなければならない。成人になっても、「忠」、「孝」を教訓すべきだ。玉は磨かないと光らないのである。

① 父は子の能力に応じて職業教育を施し、子に家業を継がせなければならない。

【原文】

沒棍遣<sup>49)</sup>没藝、所<sup>50)</sup>困法極分驕矜、<sup>51)</sup>蹊道<sup>52)</sup>勸棍歇飭、……<sup>53)</sup>喻可<sup>54)</sup>躡賢初訓子、經沒舖欣女<sup>55)</sup>旣鑽、<sup>56)</sup>勸嘍<sup>57)</sup>褫道謙讓、意<sup>58)</sup>時仁軌<sup>59)</sup>哈唐<sup>60)</sup>吠棍<sup>61)</sup>。……<sup>62)</sup>隨才<sup>63)</sup>摔役朱涓、<sup>64)</sup>几<sup>65)</sup>專<sup>66)</sup>畑<sup>67)</sup>册<sup>68)</sup>馱<sup>69)</sup>專<sup>70)</sup>棋<sup>71)</sup>絳、<sup>72)</sup>歲<sup>73)</sup>包<sup>74)</sup>皮<sup>75)</sup>堆<sup>76)</sup>絨<sup>77)</sup>荆<sup>78)</sup>布、<sup>79)</sup>業<sup>80)</sup>茹<sup>81)</sup>專<sup>82)</sup>嚙<sup>83)</sup>吼<sup>84)</sup>偵<sup>85)</sup>勤<sup>86)</sup>。

【日本語訳】

子一人一人に職業を身につけさせ、子が傲慢にならないよう礼儀、法則に従い訓育し、道に従うことを勧めなければならない。……「一篇の経典は千銀より価値がある」と子に教訓したかつての賢人の言葉は多く存在する。謙讓、仁道をしっかりと子に教育すべきである。……子の才能に応じて仕事を委ね、ある子には漢字、漢文を教育し、ある子には耕作を教える。結婚の年齢になった子に家業を継続させ、勤勉になることを勧めるべきである。

② 父は子に財産を平等に分配しなければならない。

【原文】 忸<sup>87)</sup>慙<sup>88)</sup>財産支分、<sup>89)</sup>褫<sup>90)</sup>塘<sup>91)</sup>平<sup>92)</sup>滂<sup>93)</sup>渚<sup>94)</sup>□<sup>95)</sup>劔<sup>96)</sup>欣<sup>97)</sup>。

【日本語訳】

親は子に財産を分ける際、均等にそれを分けなくてはいけない。

まとめ

このように、阮宗奎は「二十四孝」説話および中国の孝子の模範を引用して子がこれらの「孝」の型を実施すべきだと主張した。換言すれば、阮宗奎の「孝」の思想は「二十四孝」、『詩

48) 注21前掲、『五倫叙』第14葉裏、第15葉表。

49) 注21前掲、『五倫叙』第5葉表。

50) 注21前掲、『五倫叙』第15葉表。

51) 注21前掲、『五倫叙』第15葉表。



経]、「小学」などの中国の「孝」思想と同様であろう。しかし、父の役割については、中国の「父慈」の観念だけでは不十分であると指摘している。また、父は子の能力に応じて進路を勧め、子に職業を教育しつつ、家業を継続させることが重要であるともいう。ここで注目すべきは、父は子の才能に応じて教育すべきで、子全員に「漢字漢文」、すなわち「科挙」へ向かうための「経典」の教育を強制すべきでないとする点である。阮宗奎の時代には「科挙」が重視され、「科挙」および儒教の学習によって立身出世ができ、それによって、官僚や知識人層の世界に入ることができた。科挙に合格すると、「栄帰拜祖」、つまり錦を飾って家に帰ることができ、家族の栄光にもつながるのである。そのため、科挙に合格することが多くの儒者の目標になり、子に儒教の学習を勧める儒者は少なくなかった。とすれば、この阮宗奎の考えは進歩的なものといえよう。また、阮宗奎が「経典」を学習する能力がない子に対して教育すべき「職業」は農業であると考えている点からして、阮宗奎もベトナムの当時の社会も「農業」を重視したことが窺える。さらに、阮宗奎は年齢によって子の認識力が異なるため、教育内容もそれに合わせて柔軟にする必要を考えている。すなわち、十歳以下の子に対しては「礼」、「仁」、「正道」、「邪心」の区別を教育し、十歳以上の子に対しては「忠」、「孝」を教えることである。この点については、中国における子に対する「六芸」の教育内容と異なり、阮宗奎は自らの子孫にマナー、礼儀、仁義、人間の道、人格などの倫理道徳を中心に教育していることがわかる。また、子に平等に財産を分配するという考えをとおして、阮宗奎は「男尊女卑」の思想を排除したい気持ちもあったのではないだろうか。15世紀に誕生された『国朝刑律』には女性が男性と平等で親の財産を承継する権利があるとある。このことについては封建社会に刊行された他の法律文献に見えない。このように、阮宗奎の言説が『国朝刑律』の制定に影響を与えた可能性も考慮する必要があるかもしれない。

### (3) 兄弟

「兄弟」の項目には、以下のような内容が見られる。まず虞帝、周の武王および周公旦、ベトナム陳朝の藝宗帝などの手本を引用しつつ、兄弟の道徳規範が説明されている。さらに、両親の生存中には、兄は弟を可愛がり、弟を善導する必要がある、両親の死後は、弟の面倒を見つつ、財産を均等に分けなければならないという。また、自分が弟より裕福であれば弟と協力しなければならない。弟の場合は、いつも兄を尊敬し、よく兄を訪ねて奉仕しなければならない。また、自分が兄より富裕であれば兄に協力し、兄が何か誤りを犯した時にも、弟は兄を諫めなければならないという。

## (ア) 兄の弟に対する役割について

① 兄は賢明でない弟であっても可愛がり、その責任を持たなければならない。

## 【原文】

至仁嗜希虞課輅、及媿癡□虐ハ瞭、庄嫌吏穢悉腰、……道ハ英武王苞沛、且羅媿友愛強稽、……魁乘乾拮拵令弟、脛至公希藝可嗜、……徳冷初議君陳、賊名爲黜盡倫黜茹、……塘霽讓媿輅命輅、……箕鞞芾順和沛遷、嚙啗謎代噲浪賢、……璘紫荆爲茹固義、……油媿固志恪初、英卞自責底除悉私<sup>52)</sup>。

## 【日本語訳】

虞帝は「至仁」の人であったが、浅薄な弟がいた。帝はこの弟を嫌わずに可愛がった。……武王は兄としての道を全うし、且はその武王の弟であったが、兄に対する友愛の心は強かった。……藝帝<sup>53)</sup>は王位を弟に譲った。人々は藝帝の公平無私を褒め称えた。……兄が弟に王位を譲ることは陳朝の皇帝の善い徳義とされ、家内の「倫」により有名になった。……兄は弟に出世の道を譲り、自分を次とする。……和睦した家であれば、世に賢い家族として芳名を広く伝えた。……義を有する家には庭に青々とした紫荆が見られる。……もしかりに弟が以前の意志と異なるならば、兄は兄としての本分を全うしなかったことを自責すべきである。

② 両親の死後、兄は弟の面倒を見つつ、その財産を均等に分けなければならない。

## 【原文】

課雙顔咲群具在、本苞悉友愛極涓、細期永魁椿萱、媿油疎裋彊<sup>54)</sup>悉腰、怱暮朝<sup>54)</sup>拵持拵捲、……貼□遺命苞哪、油群魁<sup>54)</sup>均平吏支<sup>54)</sup>。

## 【日本語訳】

両親の生存中には、兄は弟に対する友愛の心を忘れてはならず、両親が亡くなったとしても、幼い弟を可愛がり、十分に面倒を見なければならない。また、両親の遺言に従い、財産の多少に関わらず、それを均等に分けなければならない。

③ 兄は妻の中傷の言葉を聞かずに貧しい弟を支えなければならない

## 【原文】

吝家資命承媿少、塘拵刊沛料朱皮、婦人讒問渚疑、裊暄長舌時疎同胞、脛羈牢彈媿敬賤、卒

52) 注21前掲、『五倫叙』第7葉～第9葉表。

53) ここでの藝帝はベトナム陳朝の藝宗帝である。

54) 注21前掲、『五倫叙』第16葉表。

態茹買沛賢兄、意羅道几へ英<sup>55)</sup>。

【日本語訳】

もしかりに自分が弟より裕福な生活をしていれば、妻の中傷があったとしても、その文句を聞かずに弟を支えなければならない。もしかりに妻の文句に従ったならば、同胞である兄弟の情けに影響を与えたことになるだろう。寛大な兄として弟たちに尊敬されるように努めなければならない。よりよい家風を維持できれば、それは確かに賢い兄といえよう。これは兄の道である。

(イ) 弟の兄に対する役割について

① 弟は兄の誤りを指摘したとしても、兄を尊敬しつつ従わなければならない。

【原文】

悉忱忱恭順没皮、態茹慕役據暄、渚輻賤短渚泥舌欣、期恨賢油英債拙、仕妙啞呐説勸垠<sup>56)</sup>。

【日本語訳】

弟は兄に恭順することに努めなければならない。家政の全てについて兄の意見を聞き、その長短、利害について細かく口答えしない。もしかりに兄が腹を立てて失敗した時には、弟は優しい言葉でそれを諫める必要がある。

② 弟は兄をよく訪ね、美食を差し上げなければならない。

【原文】

敬庄涓叭嘍姘吧、課寒暄啞晦~~叙~~叙<sup>57)</sup>。

【日本語訳】

弟は兄に美食を差し上げるとともに、兄をよく訪ね、畏まって会話しなければならない。

③ 自分より貧しい兄であっても協力しなければならない。

【原文】

裊悉渚論笄財、英空命固執埃朱朋、皮事長~~叙~~庄岐特、意施賢恪價馱些、英施没關順和、親疎尊敬斯賒啞吨<sup>58)</sup>。

55) 注21前掲、『五倫叙』第16葉表。

56) 注21前掲、『五倫叙』第16葉裏。

57) 注21前掲、『五倫叙』第16葉裏。

58) 注21前掲、『五倫叙』第16葉裏。

## 【日本語訳】

弟は兄を金ではなく心で対することとし、自らが兄より裕福になったとしても、兄に協力しなければならない。さらに、兄に奉仕することに対して文句も言ってはならない。それができれば賢明な弟になるであろう。兄弟が和睦すると、親疎・遠近の人々からも尊敬され、その名声が広まることであろう。

## まとめ

このように、兄弟は長幼を区別せず、どちらか一方が経済的に窮した時、妻がそれについて文句を言ったとしても、兄弟は互いに助け合うのである。兄は弟に対して譲り、面倒を見るほか、両親の財産を均等に分けなければならない。また注目すべきは、阮宗奎は中国における兄弟の模範事例を引用するとともに、ベトナムの藝宗帝、陳朝の皇帝の兄弟の協力を褒めていた。したがって、阮宗奎は『五倫叙』においてベトナムの「現地化」を反映させていたといえよう。ここで兄の弟に対する役割、職責をまとめると、兄は弟に対して「良」、「義」、「友」の理念で接するべきだとされる。一方、弟はよく兄を訪ねて、美食も分けなければならない。また、弟は兄に従いつつ、兄を尊敬するが、必要な場合には諫め、普段は親しくして仲良く話したり、詩を詠じたりすることも重要である。つまり、弟は兄に対して「敬」、「悌」、「義」の理念で接するべきだとされる。このように、兄弟が互いに仲良くして和睦した家にてできれば周囲の人々から尊敬され、その芳名が広まり伝わるのである。

## おわりに

以上、考察した結果、『五倫叙』の五倫の順序は『孟子』、『中庸』と異なり、「君臣」は第一、「父子」は第二、「兄弟」は「夫婦」より先に置かれていることがわかった。さらに、兄に対しては兄弟の心情的結束に影響を与えないように、妻の中傷を聞かないようにも勧めている。つまり、阮宗奎は兄弟の和睦が両親を喜ばせ、「孝」の道の実践につながるものと考えたのであろう。このように、阮宗奎は家よりも国を、夫婦の義よりも兄弟の情を、重視していた。ところで、五倫については『孟子』によると「教以人倫、父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信」（『孟子』滕文公上）とあり、『中庸』によると「天下之達道五。所以行之者三。曰、君臣也、父子也、夫婦也、昆弟也、朋友之交也。五者天下之達道也。知・仁・勇三者、天下之達徳也。所以行之者一也」（『中庸』第二十章）とある。これらの経書に比べ、『五倫叙』には「君臣」、「父子」、「兄弟」がどのような関係があるのか、中国とベトナムの模範的人物を引用しつつ、各人の役割、職責を詳細に言及しているため、儒教の初心者に対して、『孟子』、『中庸』

よりも細かく解かり易い内容になっていると思われる。

以下、個別の理念を見ていくと、まず「君臣」の場合、阮宗奎によれば、君は明君として人の正邪を区別しつつ徴用し、賢臣を信じなければならないという。このように、阮宗奎は「用人不疑、疑人不用」（『旧唐書』陸贄伝）という方針に従っているが、「賢人である臣下を徴用し、信頼すること」については、より詳細に主張したものといえよう。一方、臣下については、君主の恩を忘れず、人民や国のために「忠」を心に刻むべきだという。つまり、この「忠心」とは中国における「忠君」の思想の範疇より幅広く展開したものといえよう。このように、ベトナムの君臣の道は孟子の「君臣有義」とはやや異なるものになっているのである。

次に「父子」の場合、阮宗奎によれば、父は子に対して慈愛だけではなく、十歳以下の子については「礼」、「仁」、「正道」、「邪心」の区別などを教育しなければならないという。この点については、中国の子に対する「六芸」という教育内容と異なり、阮宗奎は自らの子孫にマナー、礼儀、仁義、人間の道、人格などの倫理道德を中心に教育しなければならないことを強調している。一方、十歳以上の子については、「忠」、「孝」、さらに一つの職業を教育しつつ、家業を継続させることが重要であるという。しかし、あまり学習能力がない子には必ずしも漢字漢文、つまり儒教經典を学習させる必要がないともいう。ベトナムには“Một người làm quan cả họ được nhờ”（「家族の中に、官吏になった一人がいれば、その一族はみな彼を頼ることができる」）（ハノイ漢喃研究院蔵『大南国粹』（AB.178））ということわざの通り、当時、儒教の学習によって官吏の世界へ入る機会があり、その結果光栄な人生を送り、一族は彼に頼ることができるという考えが一般的であった。この事実から考えると、阮宗奎の子育てに対する考え方は保守的ではなく、むしろ進歩的であったことが指摘できるであろう。また、阮宗奎の子に対して均等に財産を分配しなければならないという考えからは、阮宗奎は「男尊女卑」の思想を排する意図があった可能性も否定できない。

最後に「兄弟」の場合、阮宗奎によれば、兄は両親がなくなったのち、幼い弟の面倒を見、妻の中傷の言葉をも聞かず、財産を均等に分けて貧しい弟を支えなければならないという。一方、弟については、貧しい兄を援助し、尊敬すべきであるが、もしかりに兄が誤りを犯した場合、弟は兄を諫めなければならないともいう。換言すれば、兄は弟に「良」、「義」、「友」の理念で接し、弟は兄に「敬」、「悌」、「義」の理念で接したのである。

このように、『五倫叙』の考察を通して、阮宗奎が儒教に関する深い教養をもつとともに、中国の歴史・經典に精通した人物であったことが窺える。本稿はベトナムの伝統的知識人の倫理道德教育のあり方をよく示しているといえよう。

本稿では五倫のうち、残りの「夫婦」、「朋友」の理念について詳述できなかったが、筆者の

考察によれば、「夫婦」、「朋友」は基本的には中国の思想と類似しているものと思われる。簡単にいうと、「夫婦」とは互いに「情」、「礼」の理念で接し合うものであり、夫の妻に対する役割としては、自らが「修身」して妻に「勤儉」を求め、さらに両親に「親孝行」する美徳を教えなければならないという。また、夫は妻の手本となり、夫婦は「同心協力」する必要があるとされる。一方、「朋友」は互いに「信」の理念で接し合うものであり、年齢差、貧富度と関係なく付き合いなければならないという。これらの詳細な分析については次の機会に行うこととしたい。